

(1) 長崎街道木屋瀬宿記念館
主に「ひなまつり」の歴史や、多様なひな人形の種類についての解説を担っています。4館を回る予定の方は、最初に来館することで、ひなまつりについての事前知識を付けられるのでオススメです。
※入館料が必要です

(2) 旧高崎家住宅(伊馬春部生家)
展示されるひな人形の数はおよそ二〇〇〇体。文化財である建物の中に数多くのひな人形が飾られ、どなたが行っても楽しめます。飾られて



長崎街道木屋瀬宿記念館 加藤 悠

長崎街道 ひなまつり 開催中!!



北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館
北九州市八幡西区木屋瀬三丁目16番26号(〒807-1261)
TEL 093-619-1149
FAX 093-617-4949

毎年恒例行事である「長崎街道ひなまつり」を今年も開催いたします。毎回多くのお客様に足を運んでいただくこのイベントは、「長崎街道木屋瀬宿記念館」「旧高崎家住宅(伊馬春部生家)」「江戸あかりの民藝館」「立場茶屋銀杏屋」の4館で開催します。それぞれの施設で醸し出す雰囲気や展示物が少しずつ違いますので、お時間があれば全館を回っていただくと、より「長崎街道ひなまつり」を楽しめます。

(3) 江戸あかりの民藝館
館長の佐藤氏によって収集されたひな道具の展示を行っています。実際の道具をつくる職人によって手掛けられたひな道具は一見の価値があります。平日休館のため、土日祝にお越しください。

(4) 立場茶屋銀杏屋
段飾りとさげもんが、文化財である建物と調和して非常に趣深い展示となっています。ここには独自に制作された、ちいさな人形が竹の中にある「竹びな」、等身大の内裏雛である「大名びな」など他では見られない飾りが見学できます。

※各施設で会期、休館日、入館料などが異なりますのでご注意ください。



木屋瀬いろは歌留多大会を開催しました
1月13日月・祝にて、木屋瀬の新春の風物詩である「いろは歌留多大会」を開催しました。今年の参加者は87名となり、会場のこやのせ座では大変な賑わいを見せました。故 岩尾四十三郎氏が制作した歌留多を使用して行われる本大会では、今後も木屋瀬の歴史と文化を後世へ伝えるための重要なイベントとして、地域で大切に受け継いでいきます。

本大会の参加者、及び運営ボランティアの皆様方に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。来年度の開催にあたりまして、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

令和6年度より新たな形での『子供あびす頭』 町民みんなで子供の成長願う

令和6年12月7日(土)・8日(日)に、9名の児童による令和6年度『子供あびす頭』が執り行なわれました。この行事は、木屋瀬に江戸時代から伝わる由緒あるもので、男児が数え年で11歳になると頭(かしら)と呼ばれ、地域の若衆(大人)の仲間入りをする儀式として始まりました。現在では小学校4年生を頭とし、毎年執り行なわれております。

今年度は少子化が進む中、今後もこの行事を存続させるため、初めて女の子の参加が可となり、募ったところ2名が参加しました。

11月13日から毎日(土日を除く)太鼓・采振りの練習を始めましたが、各々習い事などあり、満身に練習時間も取れない中、最初はどの子も不安そうな表情しか見せず、心配しておりましたが、柳勝二先生をはじめ、木屋瀬青年会や地域の方々の大変熱心なご指導のおかげで、本番では堂々たる振る舞いを見せてくれる子供たちの成長ぶりに、感銘を受けました。

当日は天候にも恵まれ多くの加勢人の方々にも参加いただき、従来通り二基の笹山笠を巡行することができました。その中で子供たちは日々積み重ねてきた太鼓・采振りの練習の成果を



1日目の様子



2日目の儀式の様子

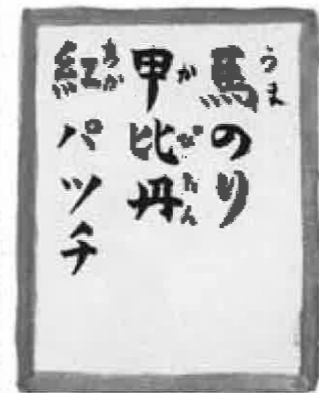
皆様の前で披露することができました。今回、歴史ある木屋瀬の伝統行事を経験したことで、郷土愛や協調性・忍耐力など、この先の人生において大切な宝となるものを得ることができたのではないかと思います。また何より同学年という縁もあり、力を合わせて取り組んだ仲間との絆もより一層深くなったのではないのでしょうか?

私自身も今回は加勢人ではなく、世話人として行事に関わらせていただいて、木屋瀬町内の皆様の地域を想う心や、この地域で暮らす子供達の健やかな成長を願う心が、昔から変わることなく現在も引き継がれていることの素晴らしい機会となりました。この行事を通して子供達の成長が木屋瀬地域の未来へと続きますようよう、今後も微力ながらお手伝いさせていただきます。

結びに、頭の準備から練習・本番当日までご協力いただきました氏子総代会、木屋瀬青年会、各団体の皆様、柳勝二先生をはじめ木屋瀬町内の皆様方、また温かいご芳志をくださいました多勢の皆様方に令和6年度子供あびす頭を代表いたしまして、心より厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

令和6年度子供あびす頭世話人 船 川 健 太

いろはかるたのご紹介



うまのり 甲比丹
あか 紅パッチ

鎖国の江戸時代。赤いズボンを履いた甲比丹(外国船の船長)が馬に騎乗し、この木屋瀬宿を通ったのでございます。長崎街道ならではの出来事でございます。

宿場踊りの思い出

かつて宿場踊り保存会の会長として、その伝承の為に広く周知を図るとともにその保存や後継者育成に力を注いできた。宿場踊りには思い出深いものがある。当時出演した大会、TV番組、映画等主なものを紹介する。

- 昭和二十二年八月十五日
NHK小倉放送局にて踊り収録
- 昭和三十五年六月十九日
放送 協力出演
- RKBドラマ「オランダかんざし」
作 伊馬春部 主演 青山京子、平幹二郎
- 昭和三十六年
松竹「女侠一代」協力出演
- 主演 清川虹子、近衛十四郎、嵐勘十郎
- 昭和三十九年
東映「男涙の破門状」協力出演
主演 桜町弘子、鶴田浩二、待田京介
- 昭和三十八年四月二十二日
大阪芸術祭 日本郷土芸能大会に出演
- 昭和四十二年十月十二日
NHK 「ふるさとの歌まつり」出演
- 昭和四十三年二月二十日
ヤクルトお祭り大合戦 出演
- 昭和四十四年八月三十日
「笑点」出演
- その他
北九州市教育委員会制作
民俗芸能映画に出演



「オランダかんざし」出演の写真



わたしの昔話



大阪芸術祭出演

■昭和三十七年四月十三日
福岡県無形民俗文化財に指定

宿場踊りの着物の柄は岩尾氏と私と甘木市の尾藤染工場の主人の三人が久良木呉服店に会し、古ハガキを無造作に切り抜いて並べて編み出した柄である。

この伝統文化が永く継承されていくことを祈ってやまない。

今回をもちまして終筆とさせていただきます。

長い間有難うございました。

宿場踊りの着物の柄について



「笑点」出演の写真



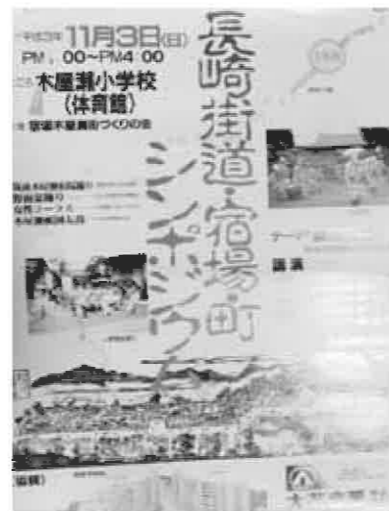
昭和三十七年
福岡県無形民俗文化財に指定
「柴田豊廣遺稿集」より 本町柴田由美子

こやのせ 宿場町木屋瀬。伝統を受け継ぎ、次世代を育む長崎街道木屋瀬宿記念館。

シリーズ 文化の薫る町 木屋瀬 第十三回 「宿場木屋瀬街づくりの会」発足

近頃、木屋瀬を訪れた人達が、「木屋瀬は変わったね」とか、「独特の雰囲気があるね」と等の、声がかれます。隣の植木や香月と比べても、又、江戸時代同じ長崎街道の宿場町であった、黒崎、飯塚、内野、山家、原田宿と比較しても違いが分かります。木屋瀬の東構口から西構口までの旧長崎街道は、江戸、大正、昭和の時代に建築された建物が連続し、横丁には神社仏閣を配し、街の中央には木屋瀬郷土資料館と、こやのせ座が建てられております。又、郷土の偉人伊馬春部氏の生家も住民の要望により復元されました。これらは、一つの考え方に基づき街づくりが行われているからです。街づくりとは、公共工事や都市計画を住民の意向を聞いて行うことです。いまでは、当たり前のことですが、道路や建築物などの公共工事は「お上」の仕事として、昔は住民の意向は聞き入れなかったのです。街づくりの言葉が使われるようになったのは、昭和二十八年愛媛県で道路の新設で意見を聞いたのが初めてと言われています。木屋瀬の街づくりですが、平成の始め頃、木屋瀬宿の西構口の保存の活動をされているグループが、はっきりとしたことは解らないが、市役所は、「西の構口を崩して道路を作る計画を練っているようです」との話を聞いてきた。構口には、江戸時代の道標もあり木屋瀬の宿場町の歴史としての大事な遺産です。崩されては大変と当時の町の有志が集まり本庁に真相を聞きに出かけたのです。役所では、物流の面から、車を街道の外側に通すという案もありますが、木屋瀬の住民の方々は、「木屋瀬の街づくりについては、どのように考えておられるのですか」と

尋ねられた。住民の方々が一致して、このようにしたいという要望があれば、「役所も全面的に応援します。お金も人も出します」との返事でした。しかし、それには条件があります。住民の総意であることと窓口は一つであることです。本庁に伺った町の有志達は、これは大変、木屋瀬の未来がかかっていると想定され、木屋瀬の総力を挙げて取り組まねばならない事項と判断し、街づくりに関心のある人たちが中心となって、街づくりの会を結成し、街づくりの基本的方向性を図る為、連日町民との懇談会を行った。どんな街にしたいのか、今のままでいいのか等等です。それらを解決する為に始めに取り組んだのが、「木屋瀬の歴史と保存」をテーマにしたシンポジウムです。平成三年十一月三日、木屋瀬小学校の講堂で開催しました。準備した椅子席が満杯で立ち見が出る状態でした。マスコミ各社の取材も盛んで翌日の新聞でも、大きく取り上げられた。テレビも各社放映しました。このシンポジウムの成功で行政からも住民からもグループが認知され、安川常雄を会長とする「宿場木屋瀬街づくりの会」が名実ともに結成されました。



発足当時のポスター

天神の記念の梅の実るかな

宿場木屋瀬街づくりの会 前会長 野口靖彦

令和7年 春季企画展の紹介

令和7年4月下旬より「二川秀臣版画展 唐津街道の宿場町」を開催予定です。版画家である二川秀臣氏より、長崎街道作品群に引き続き、追加で唐津街道の版画作品群を寄贈いただいたことで、開催する運びとなりました。関連イベントとして、唐津街道姪浜まちづくり協議会会長の田中大士氏を講師にお迎えして、唐津街道の街づくりに関する講演も行う予定です。皆様の積極的なご来館、ご参加をお待ちしております。

※このイベントは予告なく変更となる場合がございます。



二川秀臣「オランダ船と旧商館」

文化発信の寄せ太鼓。こやのせ座発、全国行き。